

【参考文献】 1) 田畑卓爾 (1999) ポリビア, タリハ渓谷住民造林・浸食防止プロジェクト 熱帯林業 No. 46 2) Jaime Rodriguez (2003) Resumen Climatologico de las Subcuencas del Monte y San Pedro 3) 田畑卓爾 (1999) (抄訳) GTZ・マメ科樹種直播試験 4) 齊藤昌宏 (2001) 造林技術の改善とモニタリング技術の向上, 短專報告書 5) 齊藤昌宏 (2000) タリハ・プロジェクトにおける植生と土壌の現状および森林回復のための樹種選定 海外研究業務報告 6) 渡辺一比古 (2000, 2001年) 苗畑発芽試験, 直播き試験 7) 東農大砂漠に緑を育てる会 (2000) ジブティの砂漠緑化 100 景. 東農大出版会 8) 高橋 悟 (2000年) 砂漠よ緑に甦れ, ジブティの砂漠緑化 100 景, 東京農大出版会

図書紹介

◎ パソ 東南アジア平地雨林の生態学 (Okuda, T., Manokaran, N., Matsumoto, Y., Niiyama, K., Thomas, S.C., Ashton, P.S. (Eds.) Pasoh — Ecology of a Lowland Rain Forest in Southeast Asia) Springer-Verlag, Tokyo 628 pp. 2003 価格 15,000 円

題名のパソは、半島マレーシアの平地林を代表する保護林の名前で、1970年代に始まった IBP による生産力調査以来、熱帯平地雨林の生態系研究・調査の場として、世界各国の研究者や学生による数々の研究と調査が、この地で精力的に行われてきた。パソ保護林は、熱帯雨林に興味を持つ者なら誰しも、その名前を耳にし、一度は訪ずれたいと希望する森林である。

本書は、1990年代にパソ保護林で行われた各種の研究を集大成した記念碑的な本であるといえる。執筆者は日本、マレーシア、欧米5ヶ国の研究者で、総勢38名にもおよんでいる。その中心となる部分は、日本の環境省予算による日本とマレーシアの共同研究の成果である。本書がカバーする分野は、動植物生態学、土壌学、林学、気象学、水文学などで、40編もの研究成果が掲載されている。研究の焦点は、最近の学問動向を反映して、生物多様性、地球環境に対する熱帯雨林の役割、持続的な森林管理などにおかれている。

本書の構成は、I章 保護林の成り立ちと環境、II章 植生の構造・多様性・動態、III章 植物個体群と機能、IV章 動物生態と多様性、V章 植物-動物間の交互作用、VI章 人為影響と森林管理からなる。熱帯雨林におけるこれらの分野の研究現状を把握するには、便利な本であるが、あまりにも広く多様な問題を扱った専門書で、個人が読み通すのにはなかなか骨がある。その上に豊富な内容を詰め込むためであろうが、図表の文字が、老人にとっては天眼鏡でもなければ読めないほどに小さいのは残念である。しかし、これから熱帯林の研究や管理を目指す若者には、こうした本を通して、第一線の研究・知識の中身を身近に感じてほしいものである。(森 徳典)